

Super FJ もてぎ・菅生シリーズ 第1・2戦

2024 もてぎチャンピオンカップレース

2024年 4月 28日 天候:晴れ/ドライ 参加11台



ようやく幕を開けた、スーパーFJ もてぎ・菅生シリーズは、モビリティリゾートもてぎを舞台として、4月28日に第1戦、第2戦のWヘッダー大会として開催された。

昨年の上位ランカーの多くは卒業を果たしたが、シリーズランキング4位の#79 中澤凌選手(ZAP NAKs 10VED)、同5位の#27 豊島里空斗選手(C.S.I.Racing)など継続して参戦してきた選手がいる一方で、今回デビュー戦を迎えた#81 丸山陽平選手(群馬トヨペット TEAM RiNoA)は18歳にしてカートレース歴10年。そして筑波・富士シリーズで昨年5位の#78 小田部憲幸選手(フォースリンク こたべ ZAP ED)が移ってくるなど、タレントには事欠かない。

第1戦 予選

今大会はWヘッダー大会だが、予選と決勝はそれぞれ独立して実施され、まずは第1戦の予選が8時50分から開始。初夏のような気候ですすでに気温は20度を超えている中でコースイン、20分のタイムアタックが開始された。5分が経過したあたりから各車アタックが本格的に開始され、まず#27 豊島選手が2分5秒951でトップに立ち、2番手には2分6秒342で#81 丸山選手がつける。続く周回でデビュー3戦目、もてぎ初参戦の#15 樺木大河選手(ZAP SPEED 10VED)が2分4秒407でトップ、#8 松原将也選手(ZAP MARUTOKU 10VED)が2分4秒680で2番手と、上位はめまぐるしく入れ替わる。9分が経過し#79 中澤選手が2分4秒279でトップに浮上すると、続いて2分

3 秒 847 にまで短縮し、#27 豊島選手も 2 分 3 秒 925 と、トップ争いは 2 分 3 秒台に突入して後半戦へ。3 番手の#15 樺木選手以下とはコンマ5秒以上の差がつき、#8 松原選手を挟んで 5 番手には 2 分 4 秒 521 で、2 シーズンぶりに参戦の#82 大川烈弥選手(群馬トヨペット TEAM RiNoA ED)が上がってくる。

残り 7 分、#27 豊島選手が 2 分 3 秒 740 をマークしてトップに立つ。追う立場になった#79 中澤選手も 2 分 3 秒 748 を出すも 1000 分の8秒及ばず 2 番手。初レースながら非凡な速さを見せる#81 丸山選手が 2 分 4 秒 029 で 3 番手に。

残り 1 分、#15 樺木選手が 2 分 3 秒 593 で、4 番手からトップへポジションアップ。#79 中澤選手が 2 分 3 秒 658 で、#27 豊島選手を追い落とし 2 番手へ。これで順位は確定かと思われたが、チェッカーが振られた周に#79 中澤選手が 2 分 3 秒 299 を叩き出し、再逆転でポールポジションを獲得した。#15 樺木選手はコンマ 294 秒差で 2 番手。3 番手が#27 豊島選手、4 番手は#81 丸山選手でセカンドローに並び、#8 松原選手と#82 大川選手がその背後につけた。

ポールポジション：#79 中澤凌選手(ZAP NAKs 10VED)

「練習もできていなくて、今年レースウィーク以外は 1 日しか走っていませんでした。どうなるかな、と思ってはいたのですが、大丈夫そうでした。去年のパッケージのままで走っているの特に(変更は)何もないです。決勝はポールポジションからスタートって、あまり経験ないので、気負いせず、気分良く走ってきます」



予選 2 番手：#15 樺木大河選手(ZAP SPEED 10VED)

「ポールポジション狙っていたので、もうちょっと行けるかな、というのはあったのですが。いろいろアクシデントがあったり、まだレース 3 戦目で位置取りだだに課題があって、いちばんタイム出したい時にいせなかったの、なんとか最低限まとめてタイム出したって感じです。個人的には不完全燃焼ですが、決勝をどうにか、チームメイトといっしょに逃げて、最後、できれば前を取りたいなという感じです。レース経験が少ないので、実戦の気持ちの合わせ方を、チームからもいろいろ言われていて、テンパっちゃうところもあるので(苦笑)、平常心で。幸い今回は予選も決勝も 2 回ずつあるので、そこで経験を積みつつ、ちゃん結果も残したいと思います」



予選 3 番手：#27 豊島里空斗選手(C.S.I.Racing)

「後半タイヤがタレちゃって、1、2 番手の選手が後半タイム出していたので、もうちょっとエア(空気圧)下げて行った方がよかったかな、と思います。タイムはもっと出るはずで、最後、前の選手と離れ過ぎちゃって、スリップが使えなかったかな、と思います。決勝は早めに前に出て、引き離していけたらいいなと思っています。前の ZAP の人はたぶんエアが低くて、最初は全然来ないと思うので、自分は最初に(前に)出て、ちょっとでも引き離せればと思っています」



第1戦 決勝



10周で行われる決勝は11時30分にフォーメーションラップ開始。本日は1日に2レースの予選・決勝が行われるためエントラントは大忙し。気温26度で、コースは絶好のドライコンディションだが、路面温度はすでに45度を超えて、さらに上昇する気配を見せている。

レースがスタートすると、フロントローの#79 中澤選手、#15 樺木選手はきれいにスタートしたが、セカンドローの#27 豊島選手、#81 丸山選手は揃って蹴り出しが弱く、後続集団に飲み込まれてしまう。対照的にスタートが良かったのが予選6番手の#82 大川選手で、前の3台を一気にかわして3番手で1コーナーに進入、#27 豊島選手は5番手に。後方でスタートが良かったのがジェントルマンクラスの#46 本間隆史選手(MATレーシングPJ10V)で、8番手から発進すると第1コーナーまでに#78 小田部選手をパスしてひとつポジションアップに成功。

ポジションを落とした#27 豊島選手ながら、気を取り直して#8 松原選手にプレッシャーをかける。すると#8 松原選手は応戦一方となり、トップ3台との間隔が広がってしまう。前を逃がしたくない#27 豊島選手は、V字コーナー進入で#8 松原選手のインからパス。さらに#81 丸山選手も立ち上がりで#8 松原選手をかわし、それぞれ4番手、5番手に浮上する。

オープニングラップを終えてトップの#79 中澤選手、2番手の#15 樺木選手はコンマ3秒差。#82 大川選手はそこから1秒近く離れていて、4番手の#27 豊島選手はさらに1秒3ほど後方で#81 丸山選手を従えている。

3周目に入ると2番手の樺木選手がペースを上げて、コンマ2秒を切るまでトップ中澤選手に迫る。樺木選手はコーナー出口からの加速が良く、2コーナーから3コーナーにかけて、一気に中澤選手のテールに。さらに豊島選手もファステストラップを刻んで、3位の大川選手と1秒差に詰める。テール・トゥ・ノーズ状態の1位中澤選手と2位樺木選手は、4周目もコンマ



185秒の差。しかし、中澤選手は樺木選手に付け入る隙を見せず、逆に5周目にはコンマ24秒にギャップを広げる。

一方、3番手の大川選手には、豊島選手がファステストラップを更新して詰め寄り、コンマ374秒差まで接近。ヘアピンでは#27豊島選手がインから刺しに行くなど、緊迫の度合いを増している。

6周目、トップの中澤選手は樺木選手よりコンマ14秒速いラップタイムで、さらに差を広げる一方で、依然として3番手大川選手と豊島選手は、随所でポジションを争いながらも2位の樺木選手にコンマ796秒まで接近してレースは7周目に突入。中澤選手は樺木選手とコンマ441秒の差、わずかながらも確実に差を広げていく。そして、一時はコンマ5秒離れた中澤選手との差を樺木選手が盛り返してダウンヒルストレートから90度コーナーへのブレーキングで勝負を挑むも、中澤選手の前には出られない。大川選手と豊島選手の3番手争い、丸山選手と松原選手の5番手争いと、随所で順位争いが展開したままでファイナルラップに突入する。まず動いたのが松原選手だ。1コーナーでアウトから丸山選手を仕留めにかかるが、勢い余ったかスピンし、すぐにレースに復帰するも、小田部選手にかわされて7番手にポジションダウン。

続いて3コーナーで、樺木選手が中澤選手にアウトから被せるも、#79中澤選手はしっかりインを守り、15樺木選手はグラベルぎりぎりまではらんで踏み留まるが、これでギャップが広がって勝負あり。後方でも豊島選手が大川選手のアウトから仕掛けるが、こちらも大川選手が3番手を守る。豊島選手はテールに貼りついて次のチャンスを狙うように、5コーナーでもアウトから並びかける。2台はサイド・バイ・サイドで130Rへ飛び込み、ここでも#82大川選手がポジションを守るが、一瞬たりとも隙を見せられない状態だ。2台はダウンヒルストレートをテール・トゥ・ノーズ状態で駆け降りると、今度は豊島選手がアウトから90度コーナーにターンイン、縁石ぎりぎりを通して大川選手の前に出た！

中澤選手はスタートから、一度もトップを譲ることなくポール・トゥ・ウインを達成。最後まで追い続けた樺木選手だったがコンマ777秒差で2位、それでもスーパーFJでは初の表彰台だ。

ファイナルラップのバトルを制した豊島選手が3位、2年ぶり参戦の大川選手は惜しくも表彰台を逃したが、ブランクを感じさせないスピードを見せてチームの期待に応えた。チームメイトの丸山選手が5位。6位には小田部選手がつけた。

そして、2台が出場のジェントルマンクラスは、#46本間隆史選手(MATレーシング PJ10V)が優勝、総合でも8位を得ていた。



ウィナー:中澤凌選手(ZAP NAKs 10VED)

「最後にちょっと迫られましたが、もしものドッグファイトのためにタイヤはセーブしていたので、それが最後使えてよかったです、危なかったですけど楽しかったです」

2 位:樺木大河選手(ZAP SPEED 10VED)

「ペース的には(中澤選手に対して)どっこいか、ちょっとこっちの方があかな、みたいな感じで。でも、後ろがそこその距離にいたので、とりあえず離すまではと思っていました。最後 2、3 周で詰められたなと思っていて、最終ラップの 3 コーナーで並んで入って、鼻先だったので行けるかなと思ったのですが、ちょっとシフトミスしちゃって 2 速に入らず、それで外に出ちゃったので、勝負ありかな、という感じでした。(中澤選手と)走り方がけっこう違うところがあって、後ろについていて、学ぶところも多かったので、次、活かせればと思います。次はポールから優勝します！」

3 位:豊島里空斗選手(C.S.I.Racing)

「(スタートの失敗は)クルマが進まなかったです。クラッチが、練習で回転を全然上げないでスタートしましたが全然ダメで、4500(回転)ぐらいまで上げましたが、それでもダメで。走りながら『何でだろう?』って思っていたんですけど、クラッチをたぶんゆっくり離しすぎているのだろうな、と分かりました。次はもうちょっと素早く離していきたいと思います。大川選手とのバトルは何回か仕掛けるところがあって、そこで行けたらもっと上に行けたと思いますが、全然自分が乗れてなかったのか、うまく走れなくて手こずっちゃって。途中ガソリン(の調整を)濃くしたらタイムも良くなったので、次はそれで行って、1 位目指して頑張ります」

第 2 戦 予選

第 2 戦の予選は午後 1 時 30 分から 20 分間で行われる。朝から好天のもてぎは気温がさらに上昇して 28 度、路面温度は 50 度を超えていた。W ヘッダー開催の今大会は、第 2 戦にニュータイヤで出走が認められている。エントリー 11 台は第 1 戦と変わらないものの、ジェントルマンクラス優勝の本間隆史選手が欠場。第 1 戦には出場しなかった #2 室龍太郎選手(HAMMER 10V)が出場する。室選手は昨年スーパーカートに出場していて、今回が初のスーパーFJ 参戦だ。

各車タイヤのウォームアップを行い、5 分経過したあたりからタイムアタックが本格化。それぞれペースが上がり、まずは第 1 戦で 3 位の豊島里空斗選手が 2 分 5 秒 158 でトップに立つ。2 番手は中澤選手の 2 分 5 秒 801 だ。

7 分が経過して開幕戦で豊島選手と好バトルを見せた大川烈弥選手(群馬トヨペット TEAM RiNoA ED)が 2 分 4 秒 859 でトップに浮上し、2 分 5 秒 012 で中澤選手が 2 番手に、3 番手には大川選手のチームメイト、#81 丸山陽平選手(群馬トヨペット TEAM RiNoA)が 2 分 5 秒 098 で続く。

いったん 4 番手にドロップした 7 豊島選手は、9 分経過時点で 2 分 4 秒 390 をマークして再びトップに立つ。大川選手も 2 分 4 秒 859 と 4 秒台に入れる。3 番手の丸山選手、4 番手の中澤選手に続いて、5 番手には第 1 戦で 2 位の樺木大河選手(ZAP SPEED 10VED)が、2 分 5 秒 453 で上がってくる。折り返しを過ぎ残り 9 分。中澤選手が 2 分 4 秒 744 で 3 番手に上がるも、樺木選手が 2 分 4 秒 700 で上回って 3 番手へ。トップの #27 豊島選手はベストタイムを 2 分 4 秒 222 から 2 分 4 秒 081 まで縮めて、2 番手以下を大きく引き離している。

残り 5 分、トップは豊島選手で変わらず、2 番手には丸山選手が 2 分 4 秒 437 で浮上。そして 6 番手に、#79 小田部憲幸選手(フォースリンク こたべ ZAP ED)が上がってくる。

残り 3 分、豊島選手は 2 分 3 秒 926 をマーク。午前中より路面コンディションが悪化したか、その後 2 分 3 秒台をマークする者は現れず、豊島選手のポールポジションが確定した。2 番手以下は最後に目まぐるしく入れ替わり、残り 1 分を切ってから大川選手 2 分 4 秒 052 で 2 番手、中澤選手が 2 分 4 秒 500 で 3 番手へとポジションを上げ、丸山選手は 4 番手、5 樺木選手 5 番手に後退した。

ポールポジション：#27 豊島里空斗選手(C.S.I.Racing)

「練習走行みたいな感覚で、緊張せず普通に走ってタイム出たので、良かったです。決勝と同じように走ったら大丈夫だったので、それが良かったかな。決勝はスタートがばっちり決まれば、組み立てどおりになると思いますが、スタートでどれだけ行けるのかで決まるでしょう。あまり争っちゃうと後ろの人が来ちゃうと思うので、とりあえずスタート 1 番で、そこから逃げる態勢に入れればいいと思います」



予選 2 番手：#82 大川烈弥選手(群馬トヨペット TEAM RiNoA ED)

「ちょっと悔しいですね、もうちょっとでただただに。正直小さいミスはしているので、それを改善すればコンマ 1 秒くらいは縮められていたかな、というぐらいの感じだっただけに、ちょっと悔しいです。感触は良くて、トップとは争えると思います。決勝は夕方なので、(コンディションが)ガラッと変わると思うので、その対応ができるかどうか。さっきできなかったところなので、どこまでできるかですね」



予選 3 番手：#79 中澤凌選手(ZAP NAKs 10VED)

「第 1 戦の時よりはそんなに調子良くなかったんですけど、3 番手なら決勝は前を狙える位置にいるので、そんなに心配はしていません。コンディション的には昼間(第 1 戦)より今ぐらいの方が合っているかもしれないです、この後はちょっと分からないですけど。昼間よりはそんなにつらくないかな、と思っています」



第 2 戦 決勝



10 周で行われる決勝は本日の最終レース、午後 4 時 45 分にフォーメーションラップ開始。気温は 23 度まで低下し、路面温度も予選の時よりかなり下がってきている。ここからフィニッシュまでにさらに温度は下がる見込みで、10 週のレースの序盤、中盤、終盤とタイヤの内圧をどこに合わせるか、各チームは思案していた。

レースがスタートすると、ポールポジションの豊島選手、大川選手ともに好スタートを切って 1 コーナーへ飛び込んでいく。中澤選手、丸山選手から樺木選手までグリッドどおりの順で続いたが、6 番手スタートの小田部選手は加速が鈍り、7 番手から鋭いダッシュを決めた松原将也選手(ZAP MARUTOKU 10V ED)にポジションを奪われる。この中で勢いがいいのが樺木選手で、3 コーナーに向けた加速で丸山選手に並びかけると、アウト側ら被せるようにターン。4 コーナーまでに仕留めて 4 位にポジションを上げると中澤選手の背後にも迫る。追われる中澤選手も、前を行く大川選手を刺そう、と 5 コーナーのアウトから仕掛けると 2 台はサイド・バイ・サイドでファーストアンダーブリッジを通過。

そこに樺木選手も加わり、3 台がワンパックになってトンネルを抜け出すと、中澤選手が 2 番手にポジションアップ。さらに S 字の進入で、樺木選手が大川選手に仕掛ける。しかし大川選手も抵抗し、サイド・バイ・サイドで S 字を通過、そのまま V 字コーナーまで粘るが、ここで樺木選手がインから前に出て 3 番手へ。2 番手以下の攻防をよそに、トップ豊島選手はコンマ 782 秒までリードを築いて、オープニングラップを終了。中澤選手からコンマ 474 秒差で樺木選手が 3 番手、コンマ 664 秒差の 4 番手で大川選手が続き、さらに松原選手が 1 秒 1 差の 5 番手。しかし丸山選手がテール・トゥ・ノーズ状態で 2 周目に入ると、ポジションを奪い返す機会をうかがう。

そのチャンスが来たのが V 字への進入で、丸山選手は松原選手のインを突いて並びかけると、そのままヘアピンでも並走。ダウンヒルストレートから 90 度コーナーへ、今度はアウトから丸山選手が原選手を仕留めて 5 番手を奪い返す。

2 周目を終えると、トップ豊島選手と中澤選手の差はコンマ 4 秒にまで縮む。さらに大川選手を振り切った樺木選手も、コンマ 166 秒差で背後につけている。この 2 台の勢いは豊島選手を上回っており、続く 3 周目、3 台が連なってファーストアンダーブリッジを通過、後方では 6 番手に落ちた松原選手に小田部選手が襲いかかり、5 コーナー入口でポジションを入れ替える。

トップ争いには大川選手も追いつき、ヘアピンでは 4 台が連なって進入。ダウンヒルストレートを駆け降りると、中澤選手が#27 豊島選手のアウト側から 90 度コーナーへ。2 台は並走でセカンドアンダーブリッジを通過、ビクトリーコーナー進入で中澤選手が前に出てトップに立つ。

3 周目を終えてトップの中澤選手から 4 番手の大川選手までがコンマ 5 秒差という接戦だ。

4 周目の 1 コーナーで豊島選手がインから中澤



選手に仕掛けて再びトップに浮上する。しかし、4 コーナーからの加速で中澤選手が並ぶと、そのまま 130R を抜けて S 字へのアプローチで再逆転。さらに樺木選手が豊島選手に迫るも、V 字コーナーへのブレーキングでタイヤをロックさせて、ここでは攻略ならず。4 周目を終えて中澤選手、豊島選手、樺木選手、大川選手のトップ 4 台は依然として 1 秒にも満たない間隔で連なっていて、誰かが仕掛ければ別の誰かがその隙を狙うという、互いにチャンスをにらんだ状態でレースは後半戦へ。

この膠着状態を打破したのは樺木選手で、6 周目の 5 コーナーでアウト側らブレーキングで豊島選手に

並びかけると、ファーストアンダーブリッジの中で前に出て 2 番手を奪い取る。樺木選手はこの周、ファステストラップも更新して、トップ中澤選手とのギャップをコンマ5秒削り取って 7 周目に入る。勢いに乗る樺木選手は、3 コーナーでインから中澤選手をオーバーテイク、トップに出る。しかし中澤選手も負けじと第 5 コーナーでアウト側から樺木選手に被せて再逆転、トップを奪い返す。チームメイト同士のトップ争いだ。

8 周目も 4 台はトレイン状態。次なるチャンスを狙ってレースは再び膠着状態になる。90 度コーナーで樺木選手は、中澤選手のリヤに貼りつくように旋回を始めるが、ここで両車は接触！ 樺木選手が #79 中澤選手のリヤを突く形になって、たまらずスピン。樺木選手と豊島選手はかわしたものの、アウトから回避しようとした大川選手は、わずかに中澤選手に接触、こちらもスピンしてしまう。2 台は再スタートが切れず。その間にトップ樺木選手、豊島選手は 8 周目を終了。3 番手に丸山選手、4 番手に小田部選手と、それぞれ順位を上げる。

ここでセーフティカー(SC)投入が宣言され、各車スローダウン。止まったマシンの回収を行いつつ隊列を整えることになるが、レースはすで 8 周目。残り 2 周であることから、レースが再開されることはなく、このまま SC ランで 10 周目まで走行し、ポジションを入れ替えることなく、樺木選手、豊島選手、丸山選手、小田部選手、松原選手、そして #18 柴田泰知選手 (ZAP SPEED RD1V ED) の順で終了した。

SC ランの間に、樺木選手と中澤選手の接触についての審査が行われ、暫定表彰式までに裁定が下され、樺木選手に 10 秒加算のペナルティが課せられ、9 位まで降格。優勝は豊島選手、2 位は丸山選手、3 位は小田部選手という順位になった。また、ジェントルマンクラスでは、孤軍奮闘の #18 柴田選手が総合でも 5 位を獲得した。

SC ランの間に、樺木選手と中澤選手の接触についての審査が行われ、暫定表彰式までに裁定が下され、樺木選手に 10 秒加算のペナルティが



課せられ、9 位まで降格。優勝は豊島選手、2 位は丸山選手、3 位は小田部選手という順位になった。また、ジェントルマンクラスでは、孤軍奮闘の #18 柴田選手が総合でも 5 位を獲得した。



優勝：#27 豊島里空斗選手(C.S.I.Racing)

「そんなに嬉しくない優勝ですけど(苦笑)。気温が下がってきて、決勝中に(濃くしてあった)燃料を薄くしたら調子良かったんですけど、追いついたなって思ったら、反応切り替わっちゃって。バトルは楽しかったんですが、自分にはちょっとラッキーだったかなって。でも、レース中、あの2台を抜けたとは思えなかったので、次はぶっちぎって勝ちたいです」

2位：#81 丸山陽平選手(群馬トヨペット TEAM RiNoA)

「スタートはまずまず決まりましたが、場所取りは慣れてなくて。自分の中で迷いが出てしまった場所取りで、オープニングラップが良くなかったのが、混戦の中で抜かれてしまったというのはこれからの課題であり、レースで勝つには場所取りは大事だと思っています。そこを次戦に向けて練習したり、考えていかなかったりしないといけないなという部分があります。スピードについては1台抜かれてしまって、それを抜き返すのが、ブロックされて時間がかっちゃって、前から離されちゃったという感じで。でも後半のペースというか、普通にひとりで走っているペースではトップと比べてもそんなに負けていない。課題もけっこう、今の自分の中ではレースウィークを通して一番いい感触だったので、これを継続して、次に挑めば結果は良くなるかな、と思っているので、引き続き頑張っていきたいな、って思います」

3位：#78 小田部憲幸選手(フォースリンク こたべ ZAP ED)

「(表彰台は)嬉しいですけれど、また棚ぼたで。ペースなくて内容では全然負けていたので、もっと実力で表彰台に行けるようにしないといけないですね。結果は良かったけど、あまり満足感がないので。ちゃんと速く走って上の方に行って。棚ぼたと言っても、まだ前にふたりいますからね。どうにか1位を取りたいと思います」





2024 MOTEGI Champion Cup Race



2024もてぎチャンピオンカップレース第2戦

2024 JAF地方選手権 もてぎ・菅生スーパーFJ選手権第1戦・第2戦

スーパーFJ 第1戦 公式予選

2024/4/28 10:00

MOBILITY RESORT
MOTEGI
Road Course(4,801m)

正式結果表

No 5

Weather :Fine
Track :Dry

Pos	No	Class	CP	Name	Type	Best Time	Delay / Gap	B/L	CarName
1	79			中澤 凌	RD10V	2'03.299		10 / 10	ZAP NAKs 10VED
2	15			樺木 大河	RD10V	2'03.593	0.294 0.294	9 / 10	ZAP SPEED 10VED
3	27			豊島 里空斗	KKS-II	2'03.666	0.367 0.073	9 / 10	C.S.I. Racing
4	81			丸山 陽平	KKS-II	2'04.029	0.730 0.363	8 / 10	群馬トヨペット TEAM RiNoA
5	8			松原 将也	RD10V	2'04.170	0.871 0.141	7 / 10	ZAP MARUTOKU 10VED
6	82			大川 烈弥	KKS-II	2'04.226	0.927 0.056	8 / 9	群馬トヨペットTeam RiNoA ED
7	78			小田部 憲幸	KKS-II	2'05.101	1.802 0.875	7 / 10	フォースリンク こたべ ZAP ED
8	46	G	1	本間 隆史	RD10V	2'06.504	3.205 1.403	10 / 10	MATレーシングPJ10V
9	37			青木 諒太	RD10V	2'06.883	3.584 0.379	9 / 10	WABITO WORKS withアルビレックスRT-ED
10	18	G	2	柴田 泰知	RD10V	2'07.167	3.868 0.284	8 / 10	ZAP SPEED RD10V ED
11	35			中嶋 哲也	KKS-II	2'08.091	4.792 0.924	6 / 9	アルビレックスGIAEDKK-S

***** 以上予選通過 (2'40.575 - 130% /G : 2'44.886 - 130%) *****

2024 JAF地方選手権 もてぎ・菅生スーパーFJ選手権第1戦・第2戦

スーパーFJ 第1戦 決勝

2024/4/28 10:00

MOBILITY RESORT
MOTEGI
Road Course(4,801m)

正式結果表

No 16

Weather :Fine
Track :Dry

Pos	No	Class	CP	Name	Type	Lap	Total Time	Delay / Gap	Best	B/L	CarName
1	79			中澤 凌	RD10V	10	20'57.235		2'04.782	7 / 10	ZAP NAKs 10VED
2	15			樺木 大河	RD10V	10	20'58.012	0.777 0.777	2'04.839	7 / 10	ZAP SPEED 10VED
3	27			豊島 里空斗	KKS-II	10	21'00.372	3.137 2.360	2'04.493	8 / 10	C.S.I. Racing
4	82			大川 烈弥	KKS-II	10	21'00.802	3.567 0.430	2'04.680	8 / 10	群馬トヨペットTeam RiNoA ED
5	81			丸山 陽平	KKS-II	10	21'02.382	5.147 1.580	2'05.025	8 / 10	群馬トヨペット TEAM RiNoA
6	78			小田部 憲幸	KKS-II	10	21'05.588	8.353 3.206	2'04.957	6 / 10	フォースリンク こたべ ZAP ED
7	8			松原 将也	RD10V	10	21'16.396	19.161 10.808	2'04.621	8 / 10	ZAP MARUTOKU 10VED
8	46	G	1	本間 隆史	RD10V	10	21'27.480	30.245 11.084	2'07.589	4 / 10	MATレーシングPJ10V
9	18	G	2	柴田 泰知	RD10V	10	21'37.800	40.565 10.320	2'07.961	7 / 10	ZAP SPEED RD10V ED
*1	10			青木 諒太	RD10V	10	21'38.698	41.463 0.898	2'07.145	9 / 10	WABITO WORKS withアルビレックスRT-ED
11	35			中嶋 哲也	KKS-II	10	22'04.466	1'07.231 25.768	2'09.388	6 / 10	アルビレックスGIAEDKK-S

***** 以上完走 (規定周回数 9Laps /G : 9Laps) *****



2024 MOTEGI Champion Cup Race



2024もてぎチャンピオンカップレース第2戦

2024 JAF地方選手権 もてぎ・菅生スーパーFJ選手権第1戦・第2戦

スーパーFJ 第2戦 公式予選

2024 / 4 / 28 / 4:40

MOBILITY RESORT
MOTEGI
Road Course(4,801m)

正式結果表

No 21

Weather : Fine
Track : Dry

Pos	No	Class	CP	Name	Type	Best Time	Delay / Gap	B/L	CarName
1	27			豊島 里空斗	KKS-II	2'03.926		8 / 10	C.S.I. Racing
2	82			大川 烈弥	KKS-II	2'04.052	0.126 0.126	9 / 9	群馬トヨペットTeam RiNoA ED
3	79			中澤 凌	RD10V	2'04.346	0.420 0.294	9 / 10	ZAP NAKs 10VED
4	81			丸山 陽平	KKS-II	2'04.369	0.443 0.023	9 / 10	群馬トヨペット TEAM RiNoA
5	15			樺木 大河	RD10V	2'04.638	0.712 0.269	7 / 10	ZAP SPEED 10VED
6	78			小田部 憲幸	KKS-II	2'04.945	1.019 0.307	7 / 10	フォースリンク こたべ ZAP ED
7	8			松原 将也	RD10V	2'04.950	1.024 0.005	7 / 10	ZAP MARUTOKU 10VED
8	18	G	1	柴田 泰知	RD10V	2'07.363	3.437 2.413	9 / 9	ZAP SPEED RD10V ED
9	35			中嶋 哲也	KKS-II	2'07.476	3.550 0.113	9 / 10	アルビレックスGIAEDKK-S
10	37			青木 諒太	RD10V	2'07.562	3.636 0.086	8 / 10	WABITO WORKS withアルビレックスRT-ED
11	2			室 龍太郎	RD10V	2'07.779	3.853 0.217	3 / 8	HAMMER 10V

***** 以上予選通過 (2'41.340 - 130% / G : 2'45.571 - 130%) *****

2024 JAF地方選手権 もてぎ・菅生スーパーFJ選手権第1戦・第2戦

スーパーFJ 第2戦 決勝

2024 / 4 / 28 / 18:15

MOBILITY RESORT
MOTEGI
Road Course(4,801m)

正式結果表

No 30

Weather : Fine
Track : Dry

Pos	No	Class	CP	Name	Type	Lap	Total Time	Delay / Gap	Best	B/L	CarName
1	27			豊島 里空斗	KKS-II	10	23'23.874		2'04.951	5 / 10	C.S.I. Racing
2	81			丸山 陽平	KKS-II	10	23'24.058	0.184 0.184	2'04.751	7 / 10	群馬トヨペット TEAM RiNoA
3	78			小田部 憲幸	KKS-II	10	23'25.419	1.545 1.361	2'05.198	7 / 10	フォースリンク こたべ ZAP ED
4	8			松原 将也	RD10V	10	23'25.850	1.976 0.431	2'05.351	5 / 10	ZAP MARUTOKU 10VED
5	18	G	1	柴田 泰知	RD10V	10	23'27.916	4.042 2.066	2'06.906	7 / 10	ZAP SPEED RD10V ED
6	2			室 龍太郎	RD10V	10	23'28.820	4.946 0.904	2'07.808	7 / 10	HAMMER 10V
7	37			青木 諒太	RD10V	10	23'29.495	5.621 0.675	2'08.283	8 / 10	WABITO WORKS withアルビレックスRT-ED
8	35			中嶋 哲也	KKS-II	10	23'30.415	6.541 0.920	2'09.045	6 / 10	アルビレックスGIAEDKK-S
*1	9			樺木 大河	RD10V	10	23'32.907	9.033 2.492	2'04.510	6 / 10	ZAP SPEED 10VED

***** 以上完走 (規定周回数 9Laps / G : 9Laps) *****

79				中澤 凌	RD10V	7	14'42.743	3Laps 3Laps	2'04.922	5 / 7	ZAP NAKs 10VED
82				大川 烈弥	KKS-II	7	14'43.750	3Laps 1.007	2'04.844	2 / 7	群馬トヨペットTeam RiNoA ED

